

## 本邦発症進行性多巣性白質脳症(PML)に対する塩酸メフロキン治療 の多数例での検討

研究開発分担者： がん・感染症センター都立駒込病院 脳神経内科 三浦義治

基礎疾患	塩酸メフロキン投与	症例数	平均年齢	性別
HIV	あり	11	49.9	男性11
	なし	7	38.2	男性6 女性1
non HIV	あり	23	61.4	男性11 女性12
	なし	5	82	男性2 女性3

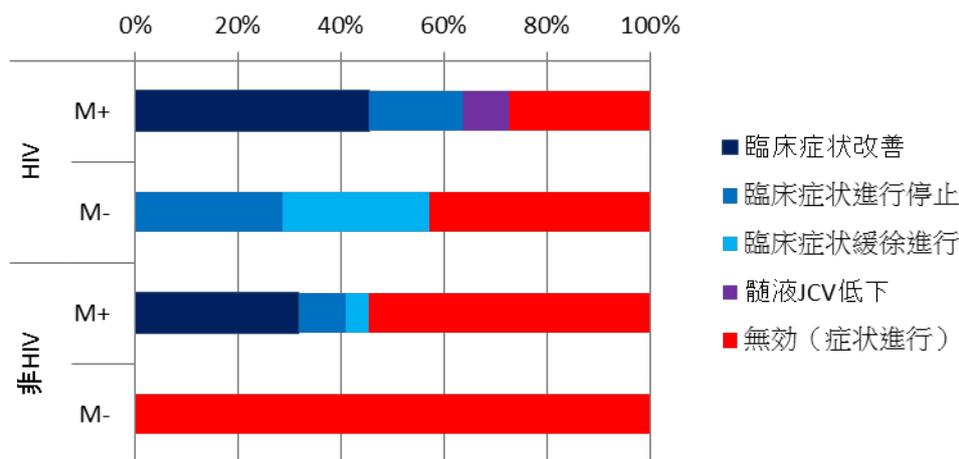


表5 死亡症例と診断後平均余命

基礎疾患	塩酸メフロキン投与	死亡転帰症例数	PML死亡	診断後平均余命(月)
HIV	あり	5	4	4 (3か月)
	なし	3	3	3 (15.5か月)
非HIV	あり	13	12	5.6 (12例)
	なし	5	5	1.4 (3例)

### 解 説

1. 国立感染症研究所および東京都立駒込病院内PML情報センターに集積された本邦PML症例情報を集積し、34例の塩酸メフロキン投与PML症例(HIV-PML11例、non HIV-PML23例)と12例の非投与症例(HIV7例、non HIV 5例)の情報が収集された。
2. 塩酸メフロキン投与1例で肝障害のため塩酸メフロキン投与が中止され、塩酸メフロキン投与HIV-PML11例中臨床症状の改善を5症例で認めた。一方非HIV-PML23例では 7例で臨床症状の改善を認めた。転帰では非HIV-PMLで死亡例が目立ち、診断後余命に関しては塩酸メフロキン投与症例群と非投与群での差異がみられた。いずれも統計学的有意差は検出されなかったが、パワー分析にての必要最低症例数に達していないためであり、引き続き情報収集して今年度目標症例数に達する見込みであり、解析して有意差を検証する。